



紫藤通信

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
有限会社 須賀印刷

<http://www.yamamura-kokusai.ed.jp>

「人為」

理事長 岡 實

短大生の演ずる山村ぬみよ先生が「次はあなた達の番よ」の言葉を受け一斉に踊り出す短大生・高校生。パフォーマンスが終了した後も余韻を楽しむ如く佇む人、成し遂げた互に頑張り認め合いハイタッチで喜び合う人、成し遂げた達成感を互に確かめ合う人等々学生・生徒と叫ぶには惜しい成長した若人を観て流れ落ちる涙も気にせず立ち上り拍手を送る自分に気付いた時、目の前に居る皆に対し申し訳ない思いが湧き上りました。五時間程前の第一部の式辞で「三校の全員が一堂に会するのは初めてです。他と交り、他と力を合せ、他と行動を共にする。他を理解する、紡む事が始まる一日になる事を願っています。その為にも皆が精一杯楽しみ、喜びを心に刻んで下さい。」と賢しらの言葉を言いました。目の前に展開する情景は年齢・所属・性別等普段意識する事象を忘れ、一心に演じ、一心に声援し、一心に楽しんでいる姿でした。寡勢であり乍ら相手を上廻る声援等全体を鼓舞するものです。皆が心をついにし造り上げた「百周年記念祭」は大成功でした。何が此まで心をついに出来たのか、しっかりと計画・しっかりと準備、他に無い大きな催事、百年に一度、西武球場だからとか考えてもまだ結論は出ていません。しかし皆の成巧体験です。確かな事は人が集って成した事「人為」です。

社会に出ても人の力を集めれる人になって下さい。最後に感動的場面も見事なく、運営に係って下さったスタッフ、サポーターの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

準備におおよそ三年の月日を費やし、令和五年十一月十四日（火）所沢市のベルーナドームで、山村学園創立百周年記念祭は幕を開けました。

山村学園短期大学、山村学園高等学校、山村国際高等学校の学生・生徒・保護者・卒業生・学校関係者が一堂に会し「微笑し紡ぎ合う百年の想い」のテーマの下、心を一つに、第一部式典は厳粛そして優雅に、第二部野球部交流試合は人工芝のカクテル光線輝くグラウンドで力強く・パワフルに、第三部学生・生徒実行委員会が考案したパフォーマンスは、和やかに、それぞれの部門で本学園の学生・生徒のもつ人間性のすばらしさを随所に発揮することが出来ました。

さらに、エンディング並びにグラウンドフィナーレでは、山村ぬみよ先生の生きざまを表した短大生による劇や両校吹奏楽部、ダンス部、バトントワーリング部の合同演奏や演技は、多くの人を魅了し静かに幕を閉じました。

この記念祭に当たって、私は生徒の皆さんに、キーワードは「協力」という二文字を示しました。その文字の通り生徒の皆さんは献身的に一生懸命に取り組む、素晴らしい記念祭を創り上げてくれました。そして、「協力」という文字を体現してくれました。ありがとうございました。また、保護者の皆様にも多大なるご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

引き続き私たち教職員は、山村ぬみよ先生をはじめとした人々の想いをつなぐとともに、本校に寄せる期待に応え、新たな百年に向け、更なる発展が遂げられるよう努めて参ります。

今後とも、本校へのご支援・ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。

山村学園創立百周年 記念祭を終えて

校長 中山 達朗



100周年記念祭 バトントワーリング部

学園創立百周年記念祭において山村学園高等学校バトン部BOMBERSと合同演技をさせていただきました。同級生バトン部でも手具や踊り方が異なるため合同：とお声を頂いた時には果たして合同で演技ができるのか不安でした。

両校とも大会期間中での練習・演技の為に一緒に練習出来たのは直前の土曜日のみ。その中でも生徒同士でコミュニケーションをしっかりと取り、教え合っている姿が印象に残っています。普段とは違う表現や会場での演技は生徒達の刺激になったことと思います。

バトントワーリングを知らない人も多いかと思いますが、百周年記念祭という素敵な舞台で、生徒・教職員・保護者・関係者などの数多くの方に演技を見て頂けたこと。また広いベルーナドームでバトンの高さを気にせず思いっきり演技させていただいたことに感謝しております。



事務室だより

事務長 師岡 昇

本年度の事務事業も、皆様のご理解、ご協力をいただき順調に推進されており心から感謝申し上げます。

また、百周年記念祭においても保護者の皆様には多大なるご理解とご協力を賜り、無事に終えることが出来たことに、心からお礼申し上げます。

さて、本校においても、大きな転換期にあります。教育に対する変化がますます高まる中で、教育環境のICT化整備等積極的に取り組み、新たな時代に対応する教育を進める必要性があります。

このような時代だからこそ、

教職員・保護者の皆様の知恵・知恵を結集し、問題解決に向け協議し、学校運営のより良い方向性を探って行ければと思います。職場や保護者・地域間とのコミュニケーションを活発に行い、環境の整った学校にして行きたいと思っています。

現在事務室では、皆様に今まで提出頂きました「県の授業料軽減」

「国の就学支援金」(奨学のための給付金)について、国及び県に提出し、審査結果を待っている状態です。

保護者の皆様は、この3点の補助金申請について、「きちんと提出したかを確認したい」「出し忘れてしまい、今から提出したい」もしくは「家計の急変があった」等ご連絡をいただければ早急に対応いたしますので、事務室までご連絡ください。

順調に処理が完了し、国と県から補助金が出ましたら、初回申請の方へは、来年の二月下旬に現在届け出のある授業料等振替口座に振込処理をさせていただきます。

いただく予定です。補助金に係る相談や、届け出口座の変更等ありましたら、早めにお知らせください。





校舎内では、写真部や書道部、イラスト部、数学研究部、放送部、生物部、茶道部、居合道部の文化部の生徒たちにより、それぞれの個性を発揮した作品や企画が展示・発表及び出展された。また、各クラスの模擬店では、お客さんと呼ば込む元気な声が

●各賞の受賞は次の通り

- 紫藤賞 吹奏楽部
- 企画賞 書道部・三年四組
- 装飾賞 三年七組
- ステージ賞 ダンス部
- Tシャツ賞 三年一組
- ポスター賞 大田原楓さん

学校内をおおいに賑わした。教室の彩り鮮やかな装飾は、生徒たちが主体となり夏休み前から準備したもので、お客さんの足を留める凝ったものが多く、生徒たちの意気込みが感じられるものであった。

入場制限などがない文化祭の経験が初めてで、特に企画・運営の生徒会役員及び文化祭実行委員は困難なことが多かったと思われるが、「生徒とお客さんに楽しんでもらうために」と尽力してくれた。生徒たちの気持ちの後押しするかのような晴天にも恵まれ、テーマにあるように、今までの文化祭を取り戻していることを実感する盛り上がりとなった。

最後に、紫藤祭を開催するにあたりご尽力頂きました皆さまに御礼申し上げます。このような活動が今後とも続いていきますよう宜しくお願いいたします。



100th anniversary festival
百周年記念祭を終えて

野球部



学園創立百周年記念祭において山村学園高等学校硬式野球部と交流試合をさせていただきとても貴重な経験をさせていただきました。数多くの先輩方が紡いできた百年という歴史を記念する場で生徒、教職員、保護者、関係者などの数多くの方々に応援、観戦していただく中で野球をさせていただいたことに感謝しております。また、長い期間をかけて記念祭を準備していただいた関係者の皆様ありがとうございました。緊張感のある中で元氣凜冽と野球を楽しんだと思います。この経験は選手にとってかけがえのないものになったと思います。山村国際高等学校硬式野球部として常に周囲の方々に支えていただいて、活動が実現していることへの感謝を忘れずに日々精進していきたいと思っています。

ダンス部

ダンス部の二校合同会議が五月に行われ、いよいよ百周年に向けての取り組みが始まった。その頃はまだ先のこのように思われていたが、夏を過ぎていくうちに段々と深刻になった。二校での初めての顔合わせ、日頃は大会で競い合ってきた部員たちは一瞬にして仲間になった。そこから両校での練習が始まった。

私はまずこの二校でダンスを踊る日が来たことに感無量だった。練習を見ていると時より熱いものが込み上げた。そして当日、今までにない最高の演技ができた。

二校のダンス部員に感謝の気持ちでいっぱいだった。このあと生徒の感想を載せておく。

「ドームという場で躍らせて頂いたことや、山学さんとの交流など普段体験することのできない貴重な経験をすることができました。ダンス部みんな楽しく踊りきることができ、次の自分たちの成長に繋がる機会になったと思います。」
(ダンス部部长)



吹奏楽部

八月下旬、ZOOMにて山村学園高等学校吹奏楽部の代表生徒と本校の百周年チームの面々が顔を合わせ、記念祭に向けた会議が行われた。両校とも初々しく、中々言葉が交わされない雰囲気ではあったが、今までに一度もなかった姉妹校の交流は感慨深いものがあつた。生徒たちも雰囲気慣れ、着々とパフォーマンスの構想が練られていく。黒板をアイデアノートとして使用していたが、丸々一枚びつしりと、メモで埋め尽くされた。

合同練習は記念祭に向けクオリティの高い内容となった。パート練習では親睦を深めるためのアイスブレイクなども行われており、高校生自らの力で良い音楽を作るための工夫が見受けられた。学園の生徒たちはとてもハキハキしている印象で、きっと山国生は飲まれぬように必死だったのではないかとと思う。大合奏では予想を上回る良い響きを奏でており、山村学園両校吹奏楽部の未来は明るい！と本気で思った。

百周年記念祭にあたって。まずはブルーナドームで演奏することが人生に一度あるかないかの話であり、前日リハーサルからこの景色を目に焼き付けようと部員全員が楽しんでた。ドームの真ん中で厳粛な式歌を演奏できたことも誇ってほしい。短大福泉教授の伴奏もよくやったと思う。合同パフォーマンスでは音の響きに惑わされそうになりながらも、楽しく元気にパフォーマンスすることができた。最後のグランドフィナーレでは出演者全員と一つのパフォーマンスを創り上げることができてとても感動した。

この経験を忘れず、これからも音楽の力で盛り上げていけるよう、かわってくださる皆さんに感謝しながら努力していきたい。



一学年

こもれび 森のイバライド

十月二十九日(金)、一年生は『こもれび 森のイバライド』へ行きました。

当日は天候に恵まれ、軽く汗ばむような陽気でした。朝の早い時間での若葉駅集合でしたが、時間通りに集合し、バスで現地向かいました。現地到着後、まず行ったのは飯盒炊飯・カレー作りでした。施設の方にレクチャーを受けてから、調理を開始しました。食材の準備から火起こし、飯盒の準備など、班員たちと協力して作ったカレーは、とても美味しかったことでしょう。

昼食後は、パーク内での自由時間となりました。園内には馬やポニー、



アルパカなどの様々な動物がおり、それらの動物たちと触れ合う姿も見受けられました。また、ゴーカートや芝滑り、トランポリンといったアトラクションもあり、童心に帰ったように遊ぶ生徒たちの元気な声が響き渡っていました。その一方で、自家製のアイスクリームやかき氷といったデザートを食べながら、こもれびの中でゆっくり過ごす生徒もいました。

行動の制限が緩和されていくなか、普段の学校生活から解放され、自然の中で仲間と協力して過ごした一日は、大変有意義な時間になったのではないのでしょうか。



二学年

東京ディズニースー

九月二十九日、第二学年は東京ディズニースーに行って参りました。

当日は、晴天で、傘の必要もなく最高のディズニースー日和であったと感じます。開園時間が十八時三十分というのもあり、来場者数は少ない印象ではありましたが、それでも人気のソアリンやトイ・ストーリー・マニア!は予想通りの大行列でした。

「夢の国」の嗜み方は人それぞれで、乗り物に乗ることが目的の生徒もいれば、ショーを目的とする生徒、食べ物を目的とする生徒など目的は違えど、ストレスフリーな一日を過ごせたように感じます。普段、見ることのできない素敵な笑顔を振る舞っている姿だけでなく、絶叫系に何度も乗り、ぐったりしてしまつた姿も見られました。

二年生にとって、束の間のエンタメとなりましたが、これでまた一つ大きな行事が終わりました。レクを通して、クラスメイトと学校とは違う場所で過ごすことで、親交を深めることができたように感じます。



三学年

青春の彩り 心安き夢の国

二学期は、月に一度のペースで「非日常」がやってくる、それは目まぐるしい日々であった。まずは紫藤祭である。三年生にして初めて、完全一般公開による文化祭を体験できた。三年生のみが飲食物の販売を認められたこともあってか、各クラスとも非常に盛り上がった。各部活動の発表も、これまでの努力の集大成といえるもので、どれも感動的であった。次に恒例のデイズ

出演者たち、そして野球応援を中心となつて盛り上げてくれた三年生に、心より感謝である。卒業を控えた三年生にとって、二度と経験できない高校時代がいよいよ思い出に変わるうとしている。そのピース作りに、これらの非日常が少しでも役立ってくれたとしたら、素直に嬉しく思う。最後に「日常」についても一言。二学期は多くの三年生にとって進路が決まる大切な時期。

この原稿を書いているのが十一月末だが、三年生全員が、どうか無事に進路を決めることができますように！



留学生

エリクソン・ベッキー
Erikson Becky

八月にアイスランドから留学生、ベッキーを迎えました。わずか三か月で、彼は、既に日本と日本人について多くのことを学びました。彼は、ホストファミリーだけでなく、学校の生徒や先生達も含め、日本人の優しさと配慮に驚いています。そして、既に沢山の友達ができ、生徒達の間でも人気があります。彼はいつかプロのミュージシャンになりたいと思っています。文化祭では自ら作曲した数曲を披露して生徒や教職員を驚かせ、最後はロックバンド、クイーンの「ボヘミアン・ラプソディ」で締めくくりました。そのパフォーマンスは生徒たちから高く評価されました。ベッキーさんは数学、世界史、体育、料理などの通常授業に生徒達と一緒に参加しています。教科

教師と担任教師は、彼を歓迎し、彼が適応できるよう多大な努力を払ってきました。ベッキーさんは日本語能力を高めるだけでなく、できるだけ多くの新しい経験をしたいと考えています。そのため、彼は剣道、よさこい、バスケットボール、フットサルなど、さまざまなクラブ活動に挑戦してきました。改めて、温かく迎え入れてくださった部活動の先生方にとっても感謝しています。ベッキーさんは六月まで私たちと一緒にいます。その間、彼はここでの生活についてできる限り多くのことを学び、経験するために最善を尽くし、努力するつもりです。これからも彼を応援して、見かけたら声をかけてください！

